

2026年度研究会A（研究会） 募集一覧表

※開講曜日時限は変更となる可能性があります。すでに変更が決まっている研究会は赤字・黄色マーカーにて記載しております。

学習支援システム 応募用コード一覧	科目名称	2026年度 担当教員名	2026年度 開講期	2026年度 開講曜日時限	関連するコース	関連するコース	テーマ
25100301	研究会A（研究会）	朝比奈 茂	年間授業	月曜4時限	ローカル・サステイナビリティコース	環境サイエンスコース	健康に過ごすための体づくり、心づくり
25100302	研究会A（研究会）	板橋 美也	年間授業	木曜3時限	人間文化コース	グローバル・サステイナビリティコース	美術・デザインと持続可能な社会
25100303	研究会A（研究会）	岡松 晓子	年間授業	火曜5時限	グローバル・サステイナビリティコース	-	国際平和の追求
25100304	研究会A（研究会）	梶 裕史	年間授業	金曜5時限	人間文化コース	ローカル・サステイナビリティコース	（海・島の）文化的景観とエコツーリズム
25100305	研究会A（研究会）	金藤 正直	年間授業	金曜4時限	サステナブル経済・経営コース	ローカル・サステイナビリティコース	企業/地域の持続的成長のためのビジネスデザイン
25100306	研究会A（研究会）	金光 秀和	年間授業	火曜4時限	人間文化コース	ローカル・サステイナビリティコース	実践する技術哲学
25100307	研究会A（研究会）	北川 徹哉	年間授業	火曜4時限	ローカル・サステイナビリティコース	環境サイエンスコース	都市を構成するエレメントの勉強会
25100308	研究会A（研究会）	小島 聰	年間授業	金曜3時限	ローカル・サステイナビリティコース	-	持続可能な地域社会の創造
25100309	研究会A（研究会）	三原 さやか／佐伯 英子	年間授業	木曜4時限	ローカル・サステイナビリティコース	人間文化コース	身体の社会学
25100310	研究会A（研究会）	櫻井 洋介	年間授業	木曜4時限	サステナブル経済・経営コース	グローバル・サステイナビリティコース	人権尊重の経営と労働CSR
25100311	研究会A（研究会）	杉戸 信彦	年間授業	火曜5時限	ローカル・サステイナビリティコース	環境サイエンスコース	自然環境と災害
25100312	研究会A（研究会）	杉野 誠	年間授業	木曜5時限	サステナブル経済・経営コース	グローバル・サステイナビリティコース	持続的な社会を目指して：環境経済学的アプローチを用いて
25100313	研究会A（研究会）	ESTHER STOCKWELL	年間授業	月曜4時限	グローバル・サステイナビリティコース	人間文化コース	多様性と包摂性の社会と異文化コミュニケーション：教育と研究
25100314	研究会A（研究会）	高田 雅之	年間授業	金曜3時限	ローカル・サステイナビリティコース	環境サイエンスコース	自然環境と人間との共生（主に地域環境の視点から）
25100315	研究会A（研究会）	高田 雅之	年間授業	金曜4時限	グローバル・サステイナビリティコース	環境サイエンスコース	自然環境と人間との共生（主に国際的な視点から）
25100316	研究会A（研究会）	高橋 五月	年間授業	木曜4時限	グローバル・サステイナビリティコース	人間文化コース	文化人類学の視点から文化を探る
25100317	研究会A（研究会）	武貞 稔彦	年間授業	金曜5時限	ローカル・サステイナビリティコース	グローバル・サステイナビリティコース	持続可能な社会を求めて：途上国の人々と先進国の人たち
25100318	研究会A（研究会）	竹本 研史	年間授業	月曜5時限 ※月曜4時限から変更 になりました (2025.12.05追記)	人間文化コース	グローバル・サステイナビリティコース	他者の文化、社会の他者—ヨーロッパと近現代日本の思想・文化・社会
25100319	研究会A（研究会）	辻 英史	年間授業	火曜5時限	ローカル・サステイナビリティコース	人間文化コース	世界と日本の生活保障—社会福祉と市民社会
25100320	研究会A（研究会）	永野 秀雄	年間授業	火曜2時限	サステナブル経済・経営コース	グローバル・サステイナビリティコース	外国企業の英文CSR報告書を読む
25100321	研究会A（研究会）	永野 秀雄	年間授業	火曜4時限	サステナブル経済・経営コース	グローバル・サステイナビリティコース	外国企業の英文CSR報告書を読む
25100322	研究会A（研究会）	芳賀 和樹	年間授業	月曜4時限	人間文化コース	ローカル・サステイナビリティコース	「人間と人間」「人間と自然」の関係の変容を長期的視野から考える
25100323	研究会A（研究会）	長谷川 直哉	年間授業	火曜4時限	サステナブル経済・経営コース	ローカル・サステイナビリティコース	SDGs時代に社会から選ばれる企業とは何か
25100324	研究会A（研究会）	日原 傳	年間授業	木曜4時限	人間文化コース	ローカル・サステイナビリティコース	名勝・詩跡・旅および都市について考える
25100325	研究会A（研究会）	平野井 ちえ子	年間授業	木曜4時限	人間文化コース	ローカル・サステイナビリティコース	地域と舞台芸術のサステイナビリティ
25100326	研究会A（研究会）	藤田 研二郎	年間授業	木曜3時限	ローカル・サステイナビリティコース	サステナブル経済・経営コース	環境問題解決に向けた市民の活動と行政、企業との連携
25100327	研究会A（研究会）	松本 敦則	年間授業	火曜3時限	サステナブル経済・経営コース	グローバル・サステイナビリティコース	日本とヨーロッパの地域・企業分析
25100328	研究会A（研究会）	松本 倫明	年間授業	火曜5時限	環境サイエンスコース	ローカル・サステイナビリティコース	地球温暖化とその周辺
25100329	研究会A（研究会）	宮川 路子	年間授業	月曜3時限	環境サイエンスコース	ローカル・サステイナビリティコース	21世紀を健康に生きていくために
25100330	研究会A（研究会）	宮川 路子	年間授業	月曜4時限	環境サイエンスコース	ローカル・サステイナビリティコース	21世紀を健康に生きていくために
25100331	研究会A（研究会）	山田 久	年間授業	木曜5時限	サステナブル経済・経営コース	-	多様な人材が能力を活かせる雇用社会
25100332	研究会A（研究会）	湯澤 規子	年間授業	火曜3時限	ローカル・サステイナビリティコース	サステナブル経済・経営コース	「地域の経済」を考える
25100333	研究会A（研究会）	吉永 明弘	年間授業	木曜2時限	人間文化コース	ローカル・サステイナビリティコース	環境倫理学とアメニティマップ

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100301		
テーマ	健康に過ごすための体づくり、心づくり				
担当者	朝比奈 茂	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 4限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース				
授業の到達目標	授業のテーマ				
1. 補完代替医療(現代西洋医学以外の医療)およびホリスティックの健康観について、概説し実践できる。 2. 自らの心身について、客観的及び主観的指標を用いて、分析・評価できる。 3. 各自分で選んだテーマを調査・分析・発表できる。 4. 他人の発表に対して、自分の考え方・意見を述べることができる。	1. 東洋医学の健康観 2. ホリスティックな健康観 3. セルフメディケーションとは 4. 食事、運動、休養の重要性 5. 上記に関連する話題 ※ホリスティックとは、全体、関連、つながり、バランスといった語句を抱合する考え方				
授業の進め方					
・毎回、授業のはじめに与えられたテーマに沿って、レポート記述、グループディスカッション、その後発表する。 ・テーマに関する最新情報を提示し、それに対する個人の意見を述べる。 ・各自が興味ある「健康に関する話題」について、調査・分析し、発表する。発表した内容について、さらに調査を深め、自らの主張を論じたレポートを各学期の最終講義時に提出する。 ・各期に若干名の社会人ゲストスピーカーを招聘して、それぞれの業界の情報を話して頂く。					
学生の皆さんへのメッセージ					
本研究会は、前提として単なる知識の伝達を行う講義科目ではありません。ディスカッションを中心として講義を展開していきます。従って学生さんの積極的な態度が求められます。近年、健康や医療に関する情報が複雑かつ大量に出回っております。多くの方は、インターネットなどを通じて、瞬時に情報が手に入るようになりました。しかし、入手した情報のうち何が正しいか、また何を選択してよいか迷ってしまいます。今後、この様な社会情勢は益々多様化、複雑化、高速化すると予想されます。本研究会を修了することで、健康及びセルフメディケーションに対する意識が高まり、正確に物事を選択し、決定できる学生になることを期待しております。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準				
各自で決めたテーマについて、図書資料、WEB資料、聞き取りなどを用いて、調査・分析し、発表に備える。 また、参考図書を各自講読する。	授業に対する積極性、課題調査・分析・発表、レポート執筆など、総合的に判断して評価する。				
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2年生				
募集は、新2年生8名(男子4名、女子4名)程度とする。 選考は、書類選考及び対面による面接で決定する。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミの情報詳細は、学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	有				
備考					
本研究会は、年に2回(夏季休暇、春季休暇)、校外で合宿を行っております。どちらか一つは必ず参加できる方を募集の条件といたします。					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100302		
テーマ	美術・デザインと持続可能な社会				
担当者	板橋美也	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日 3限
関連するコース	グローバル・サステイナビリティコース 人間文化コース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
ディスカッションやグループワークを通して、1つの定まった正解がない課題に対して、自分とは違う考え方や見方を尊重しながら自分の意見を述べることができるようになること。クラスでの発表とその準備作業を通して、資料収集・分析能力を養い、調査内容に基づいて自分の主張を論理的に説明できるようになること。			美術・デザインと持続可能な社会:美術・デザイン・ファッション・建築等が社会の様々な課題をどのように反映し、その課題にどのように向き合ってきたのかを学びます。そして、それを踏まえて、現代社会の課題と、それに対して何がなされているのか・なされるべきかについて、考えを深めていきます。		
授業の進め方					
<p>(1) 指定したテキストやテーマに関する発表・ディスカッション・グループワークを通して、美術・デザイン・ファッション・建築等が社会の様々な課題をどのように反映し、その課題に対して何がなされてきたのか・なされるべきかについて、様々な考えを知り、自身の考えを築いていきます。</p> <p>(2) 発表担当者が各自の関心にもとづいて調べた内容の発表をし、それについてゼミ生全員でディスカッションします。</p> <p>* (1) (2) いずれの場合も、ゼミ生それぞれが自分の考え方や疑問点を積極的に発言することが求められます。</p> <p>(3) 長期休暇中など授業日以外に、美術館・展覧会や建築物を見学に行きます。</p>					
学生の皆さんへのメッセージ					
<p>美術・デザイン・ファッション・建築は、ただ「美しさ」や「センスの良さ」を競うだけのものではなく、人々の生活や社会と分かちがたく結びつき、近代化・産業化・消費文化の功罪、グローバル化の中での異文化受容、ジェンダーなどにまつわる、その時々の様々な課題を反映してきました。また、私たちの固定観念を問い合わせし、様々なものの見方に対する柔軟な姿勢を促してくれます。持続可能な社会の実現のために、美術・デザイン・ファッション・建築等を通してどのような試みがなされてきたのか・なされるべきか、一緒に探求しましょう。</p>					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
文献購読の際には、全員それぞれの週に指定されたテキストの範囲をよく読んでおき、授業中のディスカッションで自分の考え方を述べる準備をしておいてください。また、各自の関心のあるテーマについての研究発表に際しては、主体的に調査を行います。			研究会への貢献度（発表の内容、授業中の発言、参加態度など）・レポートから総合的に判断します		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2・3年生				
<p>学習支援システムに提出された志望調査票に書かれた志望理由の内容によって一次選抜を行い、その後二次選抜の面接を行います。</p>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は			
説明会開催有無	無	学習支援システムに仮登録して確認してください。			
備考					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100303	
テーマ	国際平和の追求			
担当者	岡松 晓子	開講期	通年	※変更可能性有 曜日限
関連するコース	グローバル・サステイナビリティコース			
授業の到達目標		授業のテーマ		
1. 自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論することで、 <u>思考力、調査能力、問題解決能力</u> を身につける。 2. 卒業時には、研究会修了論文を提出する。		国際社会で生じた、あるいは生じている様々な問題を素材として、 <u>国際平和</u> （国際社会の中の日本、国際紛争の解決、環境問題の改善、人権の保障、よりよい社会の実現）について考える。		
授業の進め方				
専門文献講読、事例研究、個人の研究報告、時事問題に関する討論、ディベート等を行う。 学生による自主的な運営を期待する。適宜、サブゼミを行う（読書会、映画鑑賞会等）。				
学生の皆さんへのメッセージ				
本研究会は2026年度に20期生をを迎えます。これまで以上に、 <u>ゼミ生間の縦・横の連携</u> を強化し、お互いに啓発し合い、 <u>学生生活において、これだけは一生懸命にやったと自信を持って言えるもの</u> を持てるようなゼミになればと思っております。 <u>高い目標を掲げ、妥協することなく挑戦する向上心と、何事にも積極的に取り組む姿勢</u> を持った学生の参加をお待ちいたしております。少し背伸びをしましょう。質の高いゼミを目指します。 合宿、懇親会等でのOB・OGとの交流も盛んであるため、 <u>卒業生と現役生との結束</u> も強いゼミです。卒業後も縦横のつながりが長く続いている。				
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）		成績評価基準		
・毎回の予習、報告準備 ・サブゼミ（読書会、映画鑑賞会等） ・研究会修了論文発表会、OB会 ・夏合宿 ・校外授業（過去の研修先：東京税関、つくば宇宙センター、外務省外交史料館、磯子火力発電所、防衛省、海上保安資料館横浜館、成田空港、米軍基地、東京証券取引所、海洋研究開発機構、等）		報告、討論への参加、レポート、ゼミへの貢献度		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）				
募集対象学年	新2年生			
選抜方法：面接（教員と現ゼミ生による） *詳細は学習支援システムに仮登録をして確認してください。				
オープンゼミ・説明会				
オープンゼミ開催有無	有	1.オープンゼミ:10/21(5限)、11/4(5限、6限)、11/11(5限) 場所:BT1002 2.説明会：スカイホールでの全体説明会（10/24）に参加。 オープンゼミの日の4限または6限にもBT1002にてゼミ生による相談会 会 有り。希望者はメールをしてください。（okamatsu@hosei.ac.jp） 当日のレジュメは学習支援システムに仮登録して確認してください。		
説明会開催有無	有			
備考				
OB会による講演会、外部講師の講演会、歓送迎会、懇親会等、不定期に様々な企画有り。				

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100304		
テーマ	(海・島の)文化的景観とエコツーリズム				
担当者	梶 裕史	開講期	通年	曜日時限	金曜日 5限
関連するコース	人間文化コース または ローカル・サステイナビリティコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
(2年次)「環境表象論ⅠⅡ」の授業や先輩の個人研究発表から学ぶことを通じて、自らも個人研究訪問を企画・実施し、「環境表象論」の授業内容を実感的に理解できること。 (3年次)夏の八重山諸島合宿に参加し、収穫を共有できること。 (4年次)ゼミ3年間の収穫を卒業論文に纏められること。			日本型エコツーリズムの素材としての(海・島の)「文化的景観」、関連する伝統文化資産の価値の研究－(環境表象論ⅠⅡのシラバスに示された内容の多くがテーマ例になります)		
授業の進め方					
毎回、教室では個人研究発表およびその後のグループワークを基本とします。 ・2年次と4年次は、各自が個人研究テーマを決めて、一人旅またはグループで、何処かに宿泊型の(日帰り訪問の場合は年に何度もリピートする)フィールドワークの旅を企画・実施します。 ・3年次は、夏休みに約1週間の沖縄県八重山諸島ゼミ合宿に必ず参加してもらいます(費用 約12万)。3年次はこのために、予備学習&事後学習用として、春学期金曜4限Bゼミも履修してもらい、秋学期金4はサブゼミに参加してもらいます。					
学生の皆さんへのメッセージ					
・「環境表象論ⅠⅡ」という授業と密接に関わるゼミです。現1年生は、「環境表象論Ⅰ」か ILAC 科目「文学と社会 LA」を履修し(または環境表象論Ⅱか文学と社会 LB を履修中で)、授業内容に強い興味関心を持った方、または募集用 webclass 掲載の教材サンプルに目を通して、強く惹かれた方が好適です。 上記に加えて、海が大好きで、「島の伝統的な文化」と聞いて強く心が惹かれる人、文学・音楽・絵画など広い意味のアートが好きな人、日本の伝統文化・民俗(民間伝承)に深い関心がある人、などはこのゼミと相性がよいと思います。 ・環境表象論ⅠⅡをまだ履修していない人は、参加1年目にかならず履修してもらいます。 ・ゼミの後の時間に、個別指導などを行う場合があります。また交流・親睦を深める機会も重視して進めていきたいと考えています。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
各自の個人研究の準備(学習、企画)			学年末論文、授業中の発言、ゼミへの貢献度		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2年生 12名程度、新3年生若干名。現2年生の応募条件は下記。				
現2年生(新3年)は、今までに環境表象論ⅠかⅡを履修済み(または現在Ⅱを履修中)の方のみとします。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミは 11/7の5限、0605 教室にて実施予定です。情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。説明会は特に開きませんが、10/23 研究会個別相談会(@BT26階スカイホール)には参加します。			
説明会開催有無	無	質問がある場合、気軽にメールで尋ねてください。→ kaji@hosei.ac.jp			
備考					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100305		
テーマ	企業/地域の持続的成長のためのビジネスデザイン				
担当者	金藤 正直	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日 4限
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース ローカル・サステイナビリティコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
<p>企業や地域の持続的成長を実現するために、経営学・会計学・商学の視点からビジネスモデルや経営手法を論理的に分析し、構築する力を養います。また、その成果を多様なステークホルダーに対して、わかりやすく丁寧に伝える説明力・発信力を身につけることを目指します。</p>			<p>国内外の企業や地域を主体としたビジネスの現状を多角的に分析し、その実態や課題を把握します。こうした検討を通じて、「持続的成長とは何か」、「持続的成長を実現するためには、どのようなビジネスモデルや経営手法が求められるのか」について理論と実践の両面から考察を深めていきます。</p>		
授業の進め方					
<p>①現在活動中の12チームのうち、必ず1チームに所属します。</p> <p>1) 地域ビジネスチーム 2) 商品開発チーム 3) サービスマネジメントチーム 4) アパレルチーム 5) ヘルスケアチーム 6) グローバルビジネスチーム 7) エンターテインメントビジネスチーム 8) エネルギー・マネジメントチーム 9) フードロースチーム 10) 中小企業チーム 11) 人材開発・育成チーム 12) 経済・政策分析チーム</p> <p>※なお、ご相談のうえ、上記チーム以外に新たなチームを立ち上げ、そこに所属して活動することも可能です。</p> <p>②所属チームで研究計画書を作成していきます。この計画書をもとに行われる文献調査やアンケート・ヒアリング調査により、研究対象となる企業または地域のビジネスの現状と課題を明らかにしつつ、その課題への解決策も検討していきます。</p> <p>③研究・調査の進捗状況や成果は、異なるチームとの意見交換や中間報告・最終報告を行うとともに、研究・調査レポートまたは研究会修了論文としても作成し、公表していきます。</p> <p>※さらなるレベルアップのために、大学院生メンバーや事業関係者へのプレゼンテーションを始め、国内外の学会報告、インゼミの実施、企業、自治体、大学の主催イベントやエコプロへの参加、合宿（特別ゼミ）なども予定しています。</p>					
学生の皆さんへのメッセージ					
<p>経営学・会計学・商学に関心があり、個人・共同作業に積極的かつ意欲的に取り組み、他者への配慮ができ、最後まで責任を持ってやり遂げる皆さんと共に学べることを楽しみにしています。</p>					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
<p>本研究会では、経営学・会計学・商学に関する多様な文献を活用し、また研究対象となる企業や地域への調査（現地調査）も行いながら、研究の視点・方法・内容を検討していきますので、楽しく前向きに、かつ計画的に取り組んでください。</p>			<p>成績は次の4点に基づいて評価します。</p> <p>①討論への参加（発言内容）(20%) ②報告用配布レジュメの内容(20%) ③報告内容（プレゼンテーション能力）(30%) ④研究・調査レポート、研究会修了論文(30%)</p>		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新3年生は若干名、新2年生は20名程度募集します。				
<p>【選抜方法】</p> <p>① 「研究会志望調査票」と「面接試験の内容」をもとに選抜します。</p> <p>② 面接試験の日程や合否の結果報告は、Hopp iとゼミ公式の Instagramで行いますので、各自確認してください。</p> <p>【その他】</p> <p>① 研究・調査レポートおよび研究会修了論文の執筆は必須とします。</p> <p>② 研究・調査先、国内外の学会、自治体などのイベントでの研究報告や論文投稿も行います。</p>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ開催日時:11月7日(金)4時限/11月14日(金)4時限			
説明会開催有無	有	説明会開催日時:11月7日(金)5時限/11月14日(金)5時限			
備考					
<p>オープンゼミに参加される方は、場の雰囲気に注目するだけではなく、所属メンバーとの議論にも自由に楽しく参加し、また、遠慮なく提案・質問をしてください。</p>					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100306														
テーマ	実践する技術哲学																
担当者	金光 秀和	開講期	通年	<small>※変更可能性有 曜日時限</small>	火曜日 4限												
関連するコース	人間文化コース		ローカル・サステイナビリティコース														
授業の到達目標		授業のテーマ															
このゼミでは、身近な技術を対象として問い合わせを立て、他者と対話しながら深く考える探究的姿勢と実践力を育みます。フィールドワークや観察活動、プレゼンテーションなどの表現活動を通じて、課題発見・分析・構想・発信の力を高めます。また、外部ゲストとの対話やイベントの企画・運営、他大学の見学や共同活動を通して、異なる分野や立場に開かれたコミュニケーション力、調整力、ファシリテーション力を養います。		本ゼミのテーマは「実践する技術哲学」です。AI、都市インフラ、ロボット、生活に関わる道具など、私たちは日々、技術とともに生きています。こうした身の回りの技術に目を向け、たとえば、「なぜそうなっているのか?」という問い合わせを立てながら、社会や制度、倫理との関係を探ります。観察や対話、デザイン的思考、さらには表現活動も取り入れながら、哲学的思考を実社会にひらく探究を進めます。															
授業の進め方																	
技術哲学に関する文献講読、身近な技術の観察、問い合わせのトレーニング、フィールド調査、SFを題材としたリーディングセッション、ミニ・プレゼンなど、多様な活動を通して、観察・問い合わせ・考察・対話・発信のプロセスを行なうながら活動します。また、外部ゲストの講演、他大学の研究室見学、社会人とのディスカッションなど、立場を越えた学びの場も重視します。さらに、希望する学生は、イベントの企画・運営や国際的な協働学習にも挑戦できます。実践的なプロジェクトに関わることで、企画する力、関係者と調整する力、そして自ら行動を起こして形にしていく力を養う機会となります。																	
学生の皆さんへのメッセージ																	
<ul style="list-style-type: none">身近なものについて、「なぜ?」と感じることがある。誰かと問い合わせを共有しながら、深く考えてみたい。現代社会の具体的な課題に、技術やデザインの視点から取り組んでみたい。対話の場やイベントを、自分で企画・運営してみたい。理系ではないけれど、AIやロボットなど、身近な技術と社会の関係について考えてみたい。 <p>⇒ 一つでも当てはまるなら、このゼミはきっと面白い居場所になるはずです！</p>																	
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）		成績評価基準															
文献調査、文献購読、フィールドワークや観察活動、プレゼンテーションの準備、(希望する場合は)イベントの企画・準備などを行います。		平常点(授業への参加、文献調査・購読、フィールドワーク・観察調査、プレゼンテーションなど)を80%、年度末レポートを20%として評価します。															
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）																	
募集対象学年	新2年生、新3年生 <small>※新3年生は私の授業を履修したことのある方のみを募集の対象とします。</small>																
<ul style="list-style-type: none">本ゼミでは、志望理由書の提出と面接により選考を行い、最大8名を募集します。2023年度から開講された比較的新しい研究会です。新3年生の応募も可能です。その場合は、私の授業（「科学技術社会論」や「技術哲学」など）を履修したことがある方を対象とします。4年次には、「研究会修了論文」の執筆を強く推奨しています。																	
オープンゼミ・説明会																	
オープンゼミ開催有無	有	ポータルサイト「講義内情報」に募集の概要を掲載していますが、最新情報はInstagram(@kanemitsuzemi)で更新します。備考欄のリンクをご参照ください。															
説明会開催有無	有																
備考																	
https://www.instagram.com/kanemitsuzemi?igsh=ZGN6YmMwZDBnbXZs&utm_source=qr																	

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100307		
テーマ	都市を構成するエレメントの勉強会				
担当者	北川徹哉	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 4限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース 環境サイエンスコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
1. 国内または海外の都市の特徴を説明できる。 2. 都市環境と都市基盤について説明できる。 3. 都市内・都市間の各種の交通や流通を説明できる。 4. 都市の政策事例を説明できる。			都市を身体に例えると、それを構成するヒト・モノやエネルギー、システムは臓器であり、血液であり、神経であったりします。どれもが欠かせないものです。このゼミは都市の健康診断をしたり、治療方法を考えるようなものと理解していただければと思います。また、学生さんが取り組みたいトピックスがあれば、どんどん申し出てください。		
授業の進め方					
都市は多くのヒト、様々なモノやシステムで構成されています。たとえば、住宅やビルなどの居住施設やオフィス・工場、航空・鉄道・自動車・船舶などを媒体とする運輸や食品流通、電話・スマホ・PC・GPSなどの通信、電力・ガス・ガソリンなどのエネルギーは私たちの生活・命の礎です。また、多種多様な企業や銀行をはじめとする金融機関などは経済産業・ビジネスの基盤です。上下水道や廃棄物処理などの公共事業や地震・台風などに対する防災も必要ですし、人々を癒す公園やカフェ、人々を楽しませるエンターテイメント施設などもあります。さらに、それぞれの事業にはプロフェッショナルな人間が従事しています。このゼミでは、都市を構成するこれらのヒトやモノ、システムについて勉強します。近年は、テーマごとにグループに分かれて輪講・調査・作業・ミーティングを行うとともに、プレゼン・討論とを織り交ぜて研究を進めています。来年度もそういった方針だと思いますが、学生さんの意見や希望に応じてコロコロ変わります。ここ数年、各グループが取り組んできたテーマは、都市の拡大・収縮、都市の緑化、LRT、企業のSDGs、都市における自転車利用、地方創生、都市の空き家問題、スポーツスタジアムのビジネスと環境対策、農業の活性化、首都直下型地震、動物愛護のCSRなど、多岐に渡ります。なお、ゼミ合宿については学生さんの意向を聞いて実施するかどうかを決めています。					
学生の皆さんへのメッセージ					
・ほのぼのとやっているゼミです。むずかしく考える必要はありません。 ・ゼミでは初めて直面する内容もありますので、たとえ間違えてしまっても、それは当然であり、それを楽しむくらいで丁度よいのです。むしろ、間違えたこと、わからなかつたこと、困っていること、を隠さずに言えれば、それはあなたの魅力の一つとなります。 ・学生さん同士でお互いに助け合い、補い合いながら、一歩一歩進みましょう。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
テキスト・資料の熟読、調査、発表の準備			参加、発表、質疑応答、討論などによる総合評価		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2~4年生				
基本的に、志望理由書での書類選考とします。面接は希望者のみ、Zoomで行います。面接を希望する場合は、北川までメール（アドレスは下記の備考を参照）にて、学生証番号・氏名、面接希望の旨、面接の希望日時（第3候補くらいまで書いてください）をご連絡ください。折り返し、面接日時とZoom情報を返信します。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は			
説明会開催有無	有	学習支援システムに仮登録して確認してください。			
備考					
質問などありましたら、北川までメール（kitagawa@hosei.ac.jp）をください。					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100308		
テーマ	持続可能な地域社会の創造				
担当者	小島 聰	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日 3限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
共通テーマに関する知見、読書力、文章力、プレゼンテーションや討論などのコミュニケーション能力、時事問題を素材とする現代社会への見識、チームとしての協働力、プロジェクトなどの構想力、地域実践の企画運営能力、学外協力者との調整・関係構築力=大学生としての総合的な能力・「実践知」を涵養します。			持続可能な地域社会への貢献を研究会のミッションとして掲げ、創造的な課題解決を図る地域のソーシャル・イノベーションと、ローカルSDGsを視野に入れて、環境・経済・社会の諸領域における多様な地域のテーマを統合的に検討しながら、地域実践に取り組みます。		
授業の進め方					
共通テーマでは、地域特性によって多様な「持続可能性」について探究するため、文献講読による基礎知識とローカルSDGsの最先端の動向を理解した上で、【長野県飯山市】、【神奈川県横須賀市長井地区】、【千葉県香取市佐原地区】、【多摩川流域（源流域の小菅村や奥多摩町から下流域の川崎市まで）】をフィールドとして、景観、環境教育、食・農、子ども、居場所・コミュニティ、中心市街地の再生、オールタナティブ・ツーリズム、都市一農山漁村の連携などのテーマに取り組む4つのプロジェクトチームをつくり、市民、NPO、企業・まちづくり会社、自治体などと連携しながら、ゼミ生が関係人口として調査研究・提言・地域実践を行います。私たちの研究会は、地域シンクタンクやチェンジメーカーとしての役割を果たすラボ（Laboratory）として、社会貢献のあり方を模索します。なお個人研究では、任意のテーマについて研究論文を作成します。					
学生の皆さんへのメッセージ					
チーム・ビルディングを図りながら、アクティブラーニングの方法（グループワーク、地域実践、報告書作成、個人テーマの研究等）を組み合わせます。特に、高度な問題発見・解決型学習＝PBL（Problem/Project based Learning）を重視し、地域と連携した実践と地域の課題解決を目的とした調査研究・提言の循環（アクション・リサーチ）をめざします。学内で考え、さらにフィールド実践を通して地域の人々と共に考える「生きた学問」（書をもってまちに出る）によって、社会に貢献する力を身につけましょう。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
・文献講読、時事問題の情報収集、書評の作成 ・共通テーマに関する事前のグループワーク ・個人テーマに関する論文執筆のための調査研究			参加姿勢、共通テーマに基づく各プロジェクトと個人テーマへの取り組み姿勢による総合評価とします。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	2026度の新2年生、15～16名程度を募集します。				
(1) 志望書と面接で選考を行う予定です。詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。 (2) 研究会Bとの重複履修については、負担過剰にならないように両立可能性について留意してください。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の詳細は、学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	有				
備考					
詳細は、説明会やオープンゼミ、WebClass、SNS、YouTubeなどで確認してください。積極的に地域実践に参加できる学生を歓迎します（都市部以外に、フィールドには過疎地域もあり、農山漁村の関係人口になりたい学生（田舎好き）にも機会を提供できます）。公務員（自治体職員等）をめざしている学生は個別にサポートします。					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100309		
テーマ	身体の社会学				
担当者	三原さやか(前期) 佐伯英子(後期)	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日 4限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース 人間文化コース				
授業の到達目標		授業のテーマ			
1. 医療や身体を社会学的観点から捉えることにより新しい知見を得る。2. 各自分が設定した研究テーマに沿って調査を行い、卒業時には研究会修了論文を提出する。		2026年度、本研究会では医療という誰もが無関係ではない常識に焦点を当て、病むことや癒すこと、それを分析するための社会学的な概念などについて理解を深めます。			
授業の進め方					
春学期と秋学期でそれぞれにテーマを設定し、それに沿って文献講読、その他のアクティビティを行います。これに加え、個人研究のためのワークショップと発表の機会も設けます。2024年度と2025年度は Hosei Diversity Weeks にゼミとしてブースを出して参加しました。2026年度も学内外の取り組みと連携してゼミの学びを実践に繋げていきます。					
学生の皆さんへのメッセージ					
本研究会では、医療社会学の理解を深め、生命倫理で問題となる簡単には答えの出ない問い合わせに取り組みます。積極的に考え、意見交換に参加してください。また、文献の講読や課題等を通して授業で英語を使うこともあります。間違いを恐れずに挑戦してください。高いレベルの英語力は必須ではありませんが、授業の内容の理解と共に語学力を高める意欲を期待しています。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）		成績評価基準			
毎週課題となる文献を読み、ディスカッションに備え、質問や意見を用意してください。また、個人研究として各自がテーマを決めて調査と発表をすることが求められます。		授業中の発言、発表内容、課題への取り組み等から総合的に判断します。			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2・3年生				
<ul style="list-style-type: none">2026年度前期は佐伯英子（通常の担当教員）が研究期間で授業を行わないので、医師としての臨床経験を持つ代講教員（三原さやか）による担当となります。本研究会は、4年次での研究会修了論文提出を必須とします。このための個人プロジェクトの指導は佐伯が前期もリモートで実施します。詳細は学習支援システムでお伝えします。ゼミに参加する人は、現代社会論I,IIを履修してください。選抜は「研究会志望調査票」の内容と面接（zoom）をもとに行います。「研究会志望調査票」には志望の理由と関心のある社会課題や取り組んでみたい研究テーマ等を具体的に書いてください。面接のスケジュールや合否については、学習支援システムからお知らせします。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	有				
備考					
質問等がある人は佐伯までメールでご連絡ください。					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード	25100310	
テーマ	人権尊重の経営と労働 CSR		
担当者	櫻井 洋介	開講期	通年
※変更可能性有 曜日限	木曜日4限		
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース グローバル・サステイナビリティコース		
授業の到達目標	授業のテーマ		
<ul style="list-style-type: none">「ビジネスと人権」や「労働 CSR」に関する知見を深め、責任ある企業行動の観点から「企業」と「人」との関係性を考察する力を身に付ける。グループワークや個人発表、論文の執筆を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、課題設定能力や論理的思考力等を鍛え、アカデミックスキルの基礎を身に付けるとともに、アカデミックスキルの向上を通じて、「社会人基礎力」を獲得する。	<p>「人権尊重の経営と労働 CSR」</p> <ul style="list-style-type: none">本ゼミでは、近年、サステナビリティ経営の文脈で注目を集めている「ビジネスと人権」をテーマに扱います。サプライチェーン上の児童労働や強制労働等の社会的な問題や、ダイバーシティ経営（女性活躍・障害者雇用・外国人労働者の登用等を含む）、「働きやすい人間らしい仕事（ディーセント・ワーク）」の実現といった企業経営上の課題等、「人」に関連する様々な切り口から、責任ある企業経営の在り方を学んでいきます。		
授業の進め方			
<ul style="list-style-type: none">学生の興味関心領域に基づいて自主研究を行い、プレゼンテーションを実施いただくとともに、その内容をもとにディスカッションを行います（ゼミ生には積極的な発言を求める）。4年次には、研究会修了論文を執筆してもらいます。研究はチーム単位で2・3年生を中心に進め、研究の節目には学外への成果報告を行います（研究成果のアウトプット活動を重視）。4年生は、2・3年生の研究をサポートしながら、研究会修了論文のための個人研究を進めもらいます。夏季休暇には、ゼミ合宿を実施します（4年生には、卒業論文の中間報告をしてもらいます）。また、ゼミ生の関心領域等に応じて、ゲストスピーカーの招聘や校外学習（企業見学や他組織との交流、イベントへの参加等）を企画します。			
学生の皆さんへのメッセージ			
本ゼミでは、理論と実践の往還を目指しており、実務に携わる企業や組織との接点を大切にしています。大学を飛び出して学びの機会を得ることは、学生にとって貴重な経験になる一方で、責任をもって関与し、主体的に学ぶ姿勢が問われることになります。「学び」にも「遊び」にも全力で取り組みながら、自律的に考え方行動することのできる学生を歓迎します。			
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準		
<ul style="list-style-type: none">自主研究（文献調査、資料作成、発表準備等）企業訪問や校外学習等の実施夏季休暇期間のゼミ合宿	ディスカッションへの参加、グループワークやゼミ活動への貢献、グループ・個人発表の内容等を総合的に評価します。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）			
募集対象学年	新2年生、新3年生（新2年生は10名程度、新3年生は若干名）		
<ul style="list-style-type: none">応募学生は、<u>担当教員の「研究会B（人間環境演習）」を通年で履修して下さい</u>（「サステナビリティ経営」および「ビジネスと人権」の基礎知識習得のため。本研究会では、基礎知識を前提にディスカッションやアウトプットを行います）。志望調査票と面接（対面 or Zoom）による選考を行います。詳細は学習支援システムを確認して下さい。4年次には卒業論文の執筆を求める。その前提で応募をご検討下さい。面接試験の日程連絡及び結果報告等は、学習支援システムとゼミのインスタグラムにて行いますので、ご確認下さい。 ※インスタグラム：法政大学_櫻井研究会 A (URL: https://www.instagram.com/hosei.sakuraizemi/)			
オープンゼミ・説明会			
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は	
説明会開催有無	有	学習支援システムに仮登録して確認してください。	
備考			
担当教員は実務家教員（現役のサステナビリティコンサルタント）であり、「ビジネスと人権」や「労働 CSR」、「サプライチェーン管理」等を専門にコンサルティング業務に従事しています。それらの経験を踏まえて、授業を行います。			

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード	25100311	
テーマ	自然環境と災害		
担当者	杉戸 信彦	開講期	通年
※変更可能性有 曜日時限	火曜日 5限		
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース 環境サイエンスコース		
授業の到達目標	授業のテーマ		
- 自然環境と人間社会のかかわりあいについて説明できる。 - 自然環境にかかる視点から地域社会の持続可能性について説明できる。 - 調査法や発表法を身につける。 - 地図を活用できる。	<p>持続可能性のある地域社会の構築に向けて、その土地の自然環境がもつ個性との調和をはかる視点が求められています。</p> <p>本研究会では、自然環境について、あるいは<u>自然環境と人間社会のかかわりあい</u>について、災害という側面を重視しながら主に地理学的な観点から考え、自然環境が人間社会に与える影響や、人間社会のあり方を見つめなおします。</p>		
授業の進め方			
<p>グループワークや文献講読、個人研究、ディスカッション、時の話題の紹介などを行います。キーワードは、自然環境、自然災害、地形、地震、津波、豪雨、火山噴火、気候変動、土地条件、土地利用、ハザードマップ、歴史、教育、地域、住民、行政、産業などです。<u>自然環境にかかる内容をひろく扱います。</u></p> <p>とくに個人研究は、皆さんの主体的な問題意識や興味関心がベースになります。はじめは漠然としていても構いませんが、積極的に学び、意義深いテーマや重要な地域を見出すよう期待しています。</p>			
学生の皆さんへのメッセージ			
<p>自然環境の地域性と歴史的変遷にかかる理解と考え方は、持続可能な地域社会を構築する鍵のひとつです。研究テーマは主に社会や地域、人々にかかるものでも構いませんが、恩恵という側面も含めて<u>自然環境の地域性と歴史的変遷を踏まえる視点を大切にしながら取り組んでください</u>。社会的な側面を含め、地理学的な視点から物事を読み解く力はさまざまな場面で必ず役立ちます。</p> <p>研究会での取り組み、またその積み重ねは、将来のご自身を支えるものになります。積極的に取り組んでいきましょう。</p>			
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準		
資料収集や調査、発表準備、まとめ等を行う。 日帰り巡検を年2回予定しています。	平常点やレポート等の総合評価（100%） 4年次には研究会修了論文を提出することとします。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）			
募集対象学年	新2年生8名程度・新3年生若干名		
<p>志望調査票に、志望理由と取り組みたいテーマを記してください。後者は箇条書きでも構いません。</p> <p>選抜は、志望調査票の記述内容や面接などによって行います。詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。なお、応募締め切り後の連絡には、学習支援システムに加えてメール（stuアドレス宛）も使用します。確認するようにしてください。</p> <p>「自然環境論I」「同II」「同III」「自然災害論」を未履修の学生は、来年度の履修を検討してください。</p>			
オープンゼミ・説明会			
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ（10/28・11/4（火）5限、BT0504教室）にて簡単なゼミ説明を行います。研究会個別相談会ではゼミ生から説明があります。是非ご参加ください。詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。	
説明会開催有無	有		
備考			
質問等は杉戸までメールをお送りください。			

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード	25100312	
テーマ	持続的な社会を目指して:環境経済学的アプローチを用いて		
担当者	杉野 誠	開講期	通年
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース グローバル・サステイナビリティコース		
授業の到達目標		授業のテーマ	
本研究会では、(1)都市における環境問題を広い視野でとらえ、(2)各自の価値基準に基づく政策思考力を高め、(3)他社に意見を伝え・議論し、(4)実践力を身に着けることを目標とします。		日本における環境問題全般について取り扱い、持続可能な社会構築に関する内容を取り扱う。	
授業の進め方			
文献の精読を行い、レポーターによる報告および議論・討論を行う。全体で質問や議論を活発に行い、報告内容のみならず、周辺領域・関連する問題に応用する。また各自のまとめレポートの進捗状況を定期的に報告する。			
学生の皆さんへのメッセージ			
当研究会では、以下の学生活動を行っています。①個人が設定した研究テーマに基づいた学習・研究、②物々交換アプリの開発・運営・イベント開催および③付属中学での授業。上記の3つのうち1つか必ず行っていただきます。研究会応募の際は、どの活動を行いたいか明確に書いてください。			
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）		成績評価基準	
テキスト・資料の熟読、関連情報の収集および報告資料の作成。 まとめレポートのトピックを決定し、各自でレポートを進める。		本研究会の成績は以下の4点を総合的に判断して決定する ① 報告資料の内容 ② プレゼンテーション能力 ③ 議論への参加（発言内容） ④ レポート	
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）			
募集対象学年	新2年、3年、4年（2年10名以内、3年4名以内、4年若干名）		
選考方法：面談の内容は、(1)研究会のテーマに対する熱意（動機）、(2)積極性（コミュニケーション）および(3)希望活動内容となります。これらを総合的に判断する。			
その他：履修期間は、1年間を前提として研究会を運営します。			
複数年の履修を前提とした研究会となります。			
また、ゼミ合宿およびインゼミにも必ず参加できること。			
オープンゼミ・説明会			
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。	
説明会開催有無	無		
備考			

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100313		
テーマ	多様性と包摂性の社会と異文化コミュニケーション：教育と研究 (Diversity, Inclusion, and Intercultural Communication: Educational and Research Approaches)				
担当者	ストックウェル・エスター	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 4限
関連するコース	グローバル・サステイナビリティコース 人間文化コース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
This course aims to advance students' knowledge and skills in intercultural communication, with a focus on acculturation and Japan's multicultural society. In the first year, students will deepen their understanding of acculturation theories, cultural adaptation processes, and the role of education, media, and policy in shaping intercultural awareness. They will also build basic research skills for studying intercultural issues. In the second year, students will apply this foundation by conducting field-based research, designing and evaluating acculturation education programs, and presenting their findings. By the end of the course, students will be able to critically analyse Japan's multicultural challenges and propose practical, evidence-based solutions.			This course explores intercultural communication through both theoretical and applied perspectives. In the first year, major themes include acculturation theory and models, cultural adaptation processes, intercultural competence, and the challenges and opportunities of Japan's multicultural era. Students will also develop foundational research skills for studying intercultural phenomena. In the second year, emphasis shifts to applied practice, where students conduct field-based research, design acculturation education programs, and evaluate their effectiveness in real-world contexts. Across both years, the course highlights the intersection of theory, policy, and practice, encouraging students to critically assess Japan's multicultural transformation and to contribute to building a more inclusive society.		
授業の進め方					
Classes will consist of a series of short lectures supported by visual materials, followed by group and class discussions based on the lecture content. Students are expected to prepare for each session by reading the assigned articles related to the upcoming topics.					
学生の皆さんへのメッセージ					
グローバル化が進む現代社会において、異文化間コミュニケーションの重要性はますます高まっています。日本もまた、多様な文化的背景を持つ人々と共に生活し、学び、働く「多文化社会」へと大きく変化しています。このような時代において、異文化を理解し、受け入れ、共に生きる力は、将来どの分野に進んでも必要不可欠なスキルです。本授業では、まず異文化適応やアカルチュレーション（文化変容）の理論を学び、自己や他者の適応プロセスについて深く考えます。そして、日本社会における移民や外国人住民の現状、多文化共生の課題や取り組みを多角的に探究します。さらに、実践的な調査や教育プログラムの企画・評価を通じて、社会に貢献できる具体的なスキルを身につけていきます。国際社会で活躍するためだけでなく、日本の将来を形づくるためにも、この分野の学びは極めて重要です。異文化コミュニケーションや多文化共生に関心のある方の積極的な参加をお待ちしています。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
Students are required to prepare for each class by reading handouts and assigned articles related to upcoming topics.			Active participation in class discussions is expected. Assessment will be based on weekly participation, presentations, and written assignments.		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新3-4年生（グローバルコミュニケーション科目またはストックウェル研究会B（Human Communication）を受講した学生のみが募集対象となります。）				
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有・無	オープンゼミ・説明会の情報詳細は			
説明会開催有無	有・無	学習支援システムに仮登録して確認してください。			
備考					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100314		
テーマ	自然環境と人間との共生(主に地域環境の視点から)				
担当者	高田 雅之	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日 3限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース・環境サイエンスコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
<p>以下の4点を身に付けることを目標とします。</p> <p>①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方 ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力(プレゼンテーション/レポート能力) ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力(コミュニケーション能力) ④自ら課題を設定し、多角的な情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力(俯瞰的/論理的思考)</p>			<p>自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、地域の社会や経済との関わりの視点を中心に、国際的視点や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力と大局観・俯瞰力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。</p>		
授業の進め方					
<p>ネイチャーポジティブ、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。</p> <p>①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、解決に向けた成果を取りまとめます ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します ③野外学習・サブゼミ・ゼミ合宿を通じて、市民活動／企業とのコラボやフィールドに学び、関心テーマを実践的に掘り下げ、自然を読み取る知識と経験、行動力・探求力・結実力を養います ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます</p>					
学生の皆さんへのメッセージ					
<p>研究会が皆さんにとって有意義となるか否かは、個々人の自発性と創造性にかかっています。そのため、ゼミ活動への参加意欲と全体への貢献意識の高い人、また合宿・サブゼミ・週末に行う野外学習に積極的に参加しする人を歓迎します。“ネイチャーポジティブ”は私達の生存に関わり、自然環境を取り巻く様相は多面的でどれも難解な答えのないテーマです。ゼミではそんな問題に挑み続けます。これから社会を生きる上で求められる「探求力」「解決力」を身に付けましょう。</p>					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
<p>設定課題に対して、事前調査、所見まとめ、資料作成、発表準備などを毎回必ず行ってもらいます。また合宿や週末等に行う野外学習などへの積極的参加を要件とします。</p>			<p>提出物の内容と期日遵守の他、学習意欲、受講態度、グループワーク等への貢献、野外学習・合宿・サブゼミ等への参加、ゼミ運営への貢献などを総合的に評価します。</p>		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2年生				
<p>募集人数：来年春に新2年生となる人を8~10名程度</p> <p>選考：選考は①書面のほか②面接(対面)、③その他の提出により行います。志望調査表には、「志望理由」に加えて「ゼミ活動を学生生活の中にどう位置付けたいか」と「自分をゼミ生集団の中でどう位置付けたいか」についても記載してください。2つのAゼミを併願する場合は、必ずそれぞれに志望調査票を提出して下さい。</p> <p>選考に関して提出するものなど詳しいことは学習支援システム(Hoppii)でお知らせしますので随時確認して下さい。</p> <p>その他：「自然環境政策論I(春期)及びII(秋期)」を必ず履修して下さい。また「サイエンスカフェIII(生態学)」(春期)及び「自然環境論IV」(秋期)の履修も推奨します。</p>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミは10月24日(BT706)を予定しています。詳しいことは学習支援システム(Hoppii)にてお知らせしますので仮登録の上で確認してください。			
説明会開催有無	有				
備考					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100315		
テーマ	自然環境と人間との共生(主に国際的な視点から)				
担当者	高田 雅之	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日 4限
関連するコース	グローバル・サステイナビリティコース・環境サイエンスコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
<p>以下の4点を身に付けることを目標とします。</p> <p>①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方 ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力(プレゼンテーション/レポート能力) ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力(コミュニケーション能力) ④自ら課題を設定し、多角的な情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力(俯瞰的/論理的思考)</p>			<p>自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、国際的視点や海外事例を中心に、加えて地域の社会経済や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力と大局観・俯瞰力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。</p>		
授業の進め方					
<p>ネイチャーポジティブ、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。</p> <p>①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、解決に向けた成果を取りまとめます ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します ③野外学習・サブゼミ・ゼミ合宿を通じて、市民活動／企業とのコラボやフィールドに学び、関心テーマを実践的に掘り下げ、自然を読み取る知識と経験、行動力・探求力・結実力を養います ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます</p>					
学生の皆さんへのメッセージ					
<p>研究会が皆さんにとって有意義となるか否かは、個々人の自発性と創造性にかかっています。そのため、ゼミ活動への参加意欲と全体への貢献意識の高い人、また合宿・サブゼミ・週末に行う野外学習に積極的に参加しする人を歓迎します。“ネイチャーポジティブ”は私達の生存に関わり、自然環境を取り巻く様相は多面的でどれも難解な答えのないテーマです。ゼミではそんな問題に挑み続けます。これから社会を生きる上で求められる「探求力」「解決力」を身に付けましょう。</p>					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
<p>設定課題に対して、事前調査、所見まとめ、資料作成、発表準備などを毎回必ず行ってもらいます。また合宿や週末等に行う野外学習などへの積極的参加を要件とします。</p>			<p>提出物の内容と期日遵守の他、学習意欲、受講態度、グループワーク等への貢献、野外学習・合宿・サブゼミ等への参加、ゼミ運営への貢献などを総合的に評価します。</p>		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2年生				
<p>募集人数：来年春に新2年生となる人を8~10名程度</p> <p>選考：選考は①書面のほか②面接(対面)、③その他の提出により行います。志望調査表には、「志望理由」に加えて「ゼミ活動を学生生活の中にどう位置付けたいか」と「自分をゼミ生集団の中でどう位置付けたいか」についても記載してください。2つのAゼミを併願する場合は、必ずそれぞれに志望調査票を提出して下さい。</p> <p>選考に関して提出するものなど詳しいことは学習支援システム(Hoppii)でお知らせしますので随時確認して下さい。</p> <p>その他：「自然環境政策論I(春期)及びII(秋期)」を必ず履修して下さい。また「サイエンスカフェIII(生態学)」(春期)及び「自然環境論IV」(秋期)の履修も推奨します。</p>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミは11月7日(BT706)を予定しています。詳しいことは学習支援システム(Hoppii)にてお知らせしますので仮登録の上で確認してください。			
説明会開催有無	有				
備考					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100316	
テーマ	文化人類学の視点から文化を探る			
担当者	高橋五月	開講期	通年	※変更可能性有 曜日限
関連するコース	人間文化コース（場合によってはグローバル・サステイナビリティコース選択も可能ですが、人間文化コースの科目履修との両立を奨励します。教員に相談してください。）			
授業の到達目標		授業のテーマ		
1) 文化人類学についての基本的な理解を得る、2) エスノグラフィーの知識と実践スキルを得る、3) 学術的議論を応用し、身近な社会問題や文化的営みについて具体例を交えながら自分の考えを述べることができる、4) 文献研究、研究発表、論文作成のスキルを得る。		授業テーマは文化人類学的視点を用いて身近な社会問題や文化的営みを調査研究することです。調査手法はエスノグラフィー（人の話を聞き、行動を観察し、その社会・文化背景を考察する）を用います。研究テーマは自由です。（例：家庭料理、ホタル保全、廃墟観光、TRPGと没入感、カメラと郷愁、参道と「みち」、等々）		
授業の進め方				
本研究会は大きく分けて3つの活動で構成されます。 ① 文献リーディング：ゼミ生の調査対象地、調査テーマ、エスノグラフィーに関連した文献を全員で講読し、意見交換。 ② 現地調査：各自が選択した研究テーマで調査計画書を作成し、実際に現地調査を実行し、発表し、意見交換。 ③ 研究分析と論文作成：現地調査をもとにリサーチクエションを練り、調査データを考察し、研究論文を仕上げ、発表する。（4年生は卒論を完成させ、発表する）				
学生の皆さんへのメッセージ				
高橋Aゼミは卒論提出が必須です。Aゼミ生は3年生と4年生で構成されており、内容は主に卒論研究に向けた準備です。高橋ゼミの「核」は文化人類学的視点ですが、学生が取り組む卒論研究テーマは多種多様です。その為、ゼミでは自分の研究テーマだけでなく他のゼミ生が取り組むテーマに関連する文献講読や意見交換にも積極的に参加します。自分とは異なる研究テーマに取り組むゼミ生と意見交換することで自分の視野が広がる楽しさを味わうこともゼミの醍醐味です。				
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）		成績評価基準		
関連文献の講読、文献感想文、ファシリテーター、調査準備、現地調査、発表準備、論文作成		平常点（意見交換への参加など）、フィールドワーク、各種発表、文献感想文や論文による総合評価		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）				
募集対象学年	高橋Bゼミ（春・秋両方）を受講済みの新3、4年生、もしくは2025年度に高橋A・Bゼミを同時履修できる新3年生			
* 志望票には、現時点で考えている卒論研究テーマとその理由について書いてください。 * 2025年度に高橋A・Bゼミの同時履修を希望する新3年生は必ずAゼミとBゼミの両方に応募してください（また志望票にはA・Bゼミ同時履修希望について言及してください）。 * 2025年度までに「環境人類学I」「同II」「同III」の2科目以上を履修することを奨励します。 * 新2年生でエスノグラフィーを学びたい方は、まずは高橋Bゼミ（春・秋両方）を受講し、エスノグラフィーの基礎を学んでください。Bゼミ履修者（春・秋両方）は希望者全員が次年度からAゼミに参加可能です。 * Aゼミ受講生は人間文化コース選択を奨励します。グローバルサステイナビリティコース選択を希望する方は高橋まで個別にメールでご連絡ください。				
オープンゼミ・説明会				
オープンゼミ開催有無	有	10/23, 11/6, 11/13(木)4限@BT901で開催予定。教室に直接お越しください。		
説明会開催有無	有	質問等は高橋<stakahashi@hosei.ac.jp>に気軽にご連絡ください。		
備考				

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100317		
テーマ	「持続可能な社会を求めて:途上国の人々と先進国私たち」				
担当者	武貞 稔彦	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日 5限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース		グローバル・サステイナビリティコース		
授業の到達目標	授業のテーマ				
本研究会では、(ア)持続可能性(もしくは開発と環境)をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ)自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ)途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像／構想できるようになることを目標とします。	2026年度は「支援」をテーマとします。SDGsの目標1に掲げられている「あらゆる形態の貧困をなくす」ということを中心に、途上国のみならず先進国も含めた社会における「支援」の意味やあり方を考えます。				
授業の進め方					
主に a)基礎文献の精読、b)与えられた課題に関する個人またはグループによる調査とグループディスカッション、c)参加者の意見表明の機会、などからなります。受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。(なお、授業とは別にサブゼミが金曜日 6限に学生の自主活動として実施されることがあります。)					
学生の皆さんへのメッセージ					
以下のキーワードに強い関心のある人の応募を期待します。【途上国、貧困、援助／支援、環境、正義、社会】演習参加者に最も求められるものは知識や学力ではなく「コミットメント」と「他者への配慮」です。教員としては、ゼミへの時間通りの出席および事前の予習は当然のことと考えています。とりわけ将来、国際協力や途上国開発にかかわる仕事に就きたい人、途上国を中心とした異文化と関わりながら国際的な舞台で仕事をしたい人は積極的に応募を検討してください。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準				
基礎文献、与えられた課題は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書なども出来る限り目を通すこと。必要に応じてゼミ外でもお互い積極的にコミュニケーションをとり、課題等について議論する機会を設けること。	研究会での議論への貢献、必要なレポート、その他研究会運営における貢献などを総合的に勘案します				
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2年生 10名程度。 新3、新4年生の応募も可。RSP生も応募可。(参加実績有り。)				
<ul style="list-style-type: none"> * 4年次に研究会修了論文を執筆します。 * 他研究会Bとの重複履修は認められます。負担が心配な人は教員に個別に相談してください。 * 応募者多数の場合は、志望調査票の精査、面談等を通じた選考を行います。選考方法およびスケジュールについては、学習支援システムを通じて連絡します。 					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	有				
備考					
特になし。					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100318									
テーマ	「他者の文化、社会の他者——ヨーロッパと近現代日本の思想・文化・社会」											
担当者	竹本 研史	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 5限 ※月曜日 4限から変更になりました(20251205追記)							
関連するコース	人間文化コース(◎)、グローバル・サステイナビリティコース(○)											
授業の到達目標とテーマ												
本研究会では、マイノリティを中心とした〈他者〉がどのように文化をつくり、逆に〈他者〉はどのように表象されてきているのか、またその他者が実際に、社会においてどのように排除されているのか、どのように社会的に包摂すべきなのか、それら以上の諸点について、ヨーロッパや近現代日本を舞台にして、人文・社会系の文献や芸術作品の分析を通じて考察することがテーマである。												
各ゼミ生は、ゼミでの学習や講義、社会連携科目、自身の個人研究とフィールド調査を通じて、テクストの読解力の養成とともに、自身の専門的知見を広め見識を深めることによって、最終的には、4年生の最後にその学生にしか書けない立派な研究会修了論文を完成させることを目標としている。												
授業の進め方												
(1) ヨーロッパや近現代日本における、他者の文化、社会の他者について、古典も含めた文献講読・芸術作品分析+秋学期の個人研究発表。												
(2) 年1、2回、事前学習のうえ、近隣の文化施設での芸術鑑賞とゼミ合宿を通じた人文系のフィールド調査。												
(3) サブゼミで、ゼミの卒業生も参加する読書会をやっている。												
学生の皆さんへのメッセージ												
ゼミは、たくさん恥をかき、数多くのミスを重ねていく場である。重要なのは、それを恐れず、教員やゼミの同僚たちの助言を受けながら、毎回の課題を誠実にかつ確実にこなすこと、そして、これを問わねば生きていけないという、各人にとって切実なテーマを深く追求していくこと、ただそれだけである。												
古代から現代までのヨーロッパ、および近現代日本の文化や社会に関心がある方であれば大歓迎。これまでのゼミ生の研究テーマも多岐にわたる（ゼミ生の研究テーマについては学習支援システム掲載資料を参照）。												
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）				成績評価基準								
(1) 授業で扱う文献は熟読のうえ、疑問点を整理し、専門用語などは事前に調べておくこと。 (2) <u>とにかく本を読むこと</u> 。映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、マンガ、スポーツ、キャンプ、落語などを積極的に鑑賞、観戦、実践すること。 (3) 人文・社会科学分野の文献を数多く揃えている書店や古本屋、図書館に足しげく通うこと。				(1) 2、3年生 ：授業中の数回の発表と司会、積極的な議論への参加、ゼミの運営への貢献、夏4,000字・冬6,000字の期末レポートと5月まで毎月1度各1,200字の小レポート、6月の研究計画書、以上の提出。 (2) 4年生 ：授業中の数回の司会、積極的な議論への参加、ゼミの運営への貢献、2回の研究会修了論文の中間報告。5月まで毎月1度各1,200字の小レポート、6月の卒論構想届、 <u>研究会修了論文</u> 、以上の提出。								
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）												
募集対象学年	新2年生から4年生まで											
志望調査票と面接により選抜。選考にあたり志望調査票の記載内容はゼミ生にも共有される。 <u>B ゼミ（演習）</u> や <u>ILAC</u> の「教養ゼミ」との掛け持ち、自分の専門分野に関連した他学部公開科目などの受講を積極的に奨励している。また4年次進級時までに、「現代思想と人間Ⅰ・Ⅱ」両科目の単位を必ず修得しておくこと。												
オープンゼミ・説明会												
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認しておくこと。										
説明会開催有無	有											
備考												
その他、質問があれば、竹本まで連絡されたし。												

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード	25100319			
テーマ	世界と日本の生活保障—社会福祉と市民社会				
担当者	辻 英史	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 5限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース 人間文化コース				
授業の到達目標				授業のテーマ	
2000年頃から日本は格差社会になったと言われはじめました。経済的に貧困な生活を送っている人の数が増えただけでなく、非正規労働に就いている人々、高齢者、シングルマザー、不登校やひきこもりなど、生活が不安定で困窮化するおそれのある人、また日常的に他者とつながりをもつ機会がなく、孤立した状態にある人たちの存在が注目を集めるようになりました。				このゼミでは、「社会的な弱者」とはどのような人たちなのか、彼ら彼女らの生活を支え、社会の一員として共生していくためにどのような試みがおこなわれているのかを調べ、その問題点を明らかにします。日本を中心に扱いますが世界のそれぞれの地域にも視野を広げます。また現在だけでなく、歴史上のさまざまな時代も考察の対象とします。さらに、社会福祉に関する行政や法律・制度だけでなく、人間相互の助け合いのあり方（「連帯」）やNPO・NGOといった市民社会の活動を含めて幅広く扱います。2026年度のテーマは引き続き<外国人市民との共生>、<子どもの貧困>です。	
授業の進め方					
このゼミでは、以下のメニューを実施します。					
<p>① 文献講読:テーマに関連する重要文献（主として日本語）を講読する。</p> <p>② グループワーク:参加者各自の関心に応じてグループに分かれ、調べた内容を報告する。</p> <p>③ フィールド調査・現地訪問:毎年のテーマに関連する施設や団体を訪問し、その活動を見学またはその手伝いをすることでグループワークに活かす。</p> <p>④ サブゼミ:通常のゼミの時間に統いて、2年生の読解力改善のための文献精読や4年生の卒論準備のための勉強会を開催する。</p> <p>⑤ 他大との合同ゼミ合宿:年1回開催します。</p> <p>⑥ 面談:夏休みと春休みに全ゼミ生に個別面談を実施します。</p>					
学生の皆さんへのメッセージ					
世の中元気で健康な人ばかりではありません。裕福で幸せな人ばかりでもありません。皆さんの周囲にも、普段は気が付かないかもしれません、きっと多くの「社会的弱者」がいるはずです。そのような人を助けるにはどうしたらいいかを考えるのがこの研究会です。ボランティアやサークルで、こうした支援活動に参加している人／したいと思っている人にお勧めです。					
研究会は、授業時間の中だけで完結するものではありません。文献講読の場合は事前に指定されたテキストを読んでくるのは当然です。グループワークでは、授業以外の時間に自分で調べてきた内容についてグループで話し合い、考えを深めています。発表者や先生の話を受動的に聞くだけでなく、自分の経験や日頃から考えていること、自発的に調べたことについて積極的に発言できる人を歓迎します。					
なお、この研究会では4年次の研究会修了論文執筆は必須です。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）				成績評価基準	
・テキスト講読		・グループワークと発表の準備		・毎回のゼミでの議論への参加、発表・報告	
・フィールド調査・現地訪問の準備		・サブゼミの準備		・グループワーク報告（各学期）、レポート（秋学期末）	
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2年生:7名程度、新3年生:若干名				
参加希望者は、Hoppiiに仮登録し、学部Youtube動画や説明ファイル「2026年度辻ゼミ概要」（Hoppiiからダウンロードおよびオープンゼミ・説明会で配布）を参考にして、自分がなぜこの研究会に入りたいと考えたのかを具体的に志望理由書に書くこと。なぜ社会福祉に関心を持ったのか、具体的にそのなかのどの領域に興味があるのか、あるいは、どのような「社会的弱者」に関心があるのか、などを書いてください。記入内容にもとづいて面接（オンライン・20分程度）を実施します。詳細はHoppiiからの一斉配信メールで連絡します。					

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ:10/21、10/28、11/4、11/11 火曜5限・F506
説明会開催有無	有	説明会:10/21、10/28、11/4、11/11 ゼミ終了後・F506
備考		

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100320			
テーマ	外国企業の英文 CSR 報告書を読む					
担当者	永野秀雄	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 2限	
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース グローバル・サステイナビリティコース					
授業の到達目標	授業のテーマ					
このゼミナールは、①4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力を持つこと、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、①ラジオビジネス英語の暗誦、②Japan Times 1 面の訳を毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、基礎情報技術者試験、水質関係第 1 種公害防止管理者試験、英検準 1 級、及び TOEIC 800 点以上の取得を目標としています。	この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2025 年度は、英文で書かれた外国企業の CSR 報告書又はサステイナビリティ報告書を学習します。					
授業の進め方						
ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿(又は大学でのゼミ)は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、4 年生による研究論文の発表が行われます。						
学生の皆さんへのメッセージ						
この研究会で勉強する内容は、質・量とも、かなりのものがあります。自分1人で同じ内容を勉強して成果を出すことは、かなり難しいと思います。しかし、本研究会に所属すれば、運動部での練習のように、先輩・同期と一緒に努力することで達成が可能になります。本研究会において、これらの課題に正面から取り組み、自分を鍛えれば、卒業後、自分が納得しうる就職ができると思います。本研究会の卒業生からは、「人生を変えたゼミ」と評価して頂いています。本研究会の卒業生は、現在、世界 5 カ国に駐在して活躍しています。元気と意欲のある方の応募を期待しています。						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準					
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。ゼミでの発表準備、ラジオビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなし、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。	平常点のみです(100%)。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。					
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	新2年生					
新2年生（現1年生）を募集します。募集人数は、この2限のゼミで 8 名前後です。2限と4限のゼミの内容は同じですので、いずれかを希望して下さい。応募は、Hoppii で[2026 年度応募用]研究会 A で、2限と4限の両方を受け付けます。						
選考は、応募者に対して4年生数名が主体となって対面で面接します。自己紹介と志望理由について、合計3分でスピーチしてください。面接の日時・場所については、課題（志望書）を提出された方に対して、メールでお知らせいたします。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。				
説明会開催有無	無					
備考						

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100321			
テーマ	外国企業の英文 CSR 報告書を読む					
担当者	永野秀雄	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 4限	
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース グローバル・サステイナビリティコース					
授業の到達目標	授業のテーマ					
このゼミナールは、①4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力を持つこと、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、①ラジオビジネス英語の暗誦、②Japan Times 1 面の訳を毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、基礎情報技術者試験、水質関係第 1 種公害防止管理者試験、英検準 1 級、及び TOEIC 800 点以上の取得を目標としています。	この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2025 年度は、英文で書かれた外国企業の CSR 報告書又はサステイナビリティ報告書を学習します。					
授業の進め方						
ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿(又は大学でのゼミ)は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、4 年生による研究論文の発表が行われます。						
学生の皆さんへのメッセージ						
この研究会で勉強する内容は、質・量とも、かなりのものがあります。自分1人で同じ内容を勉強して成果を出すことは、かなり難しいと思います。しかし、本研究会に所属すれば、運動部での練習のように、先輩・同期と一緒に努力することで達成が可能になります。本研究会において、これらの課題に正面から取り組み、自分を鍛えれば、卒業後、自分が納得しうる就職ができると思います。本研究会の卒業生からは、「人生を変えたゼミ」と評価して頂いています。本研究会の卒業生は、現在、世界 5 カ国に駐在して活躍しています。元気と意欲のある方の応募を期待しています。						
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準					
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。ゼミでの発表準備、ラジオビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなし、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。	平常点のみです(100%)。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。					
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）						
募集対象学年	新2年生					
新2年生（現1年生）を募集します。募集人数は、この4限のゼミで 8 名前後です。4限と2限のゼミの内容は同じですので、いずれかを希望して下さい。応募は、Hoppii で[2026 年度応募用]研究会 A で、4限と2限の両方を受け付けます。						
選考は、応募者に対して4年生数名が主体となって対面で面接します。自己紹介と志望理由について、合計3分でスピーチしてください。面接の日時・場所については、課題（志望書）を提出された方に対して、メールでお知らせいたします。						
オープンゼミ・説明会						
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。				
説明会開催有無	無					
備考						

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100322		
テーマ	「人間と人間」「人間と自然」の関係の変容を長期的視野から考える				
担当者	芳賀 和樹	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 4限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース 人間文化コース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
1) 資料(データ)の整理の仕方や読み解き方、専門用語の使い方を習得し、 長期的視野に基づいて論理的に思考 できるようになる 2) 自ら「問い合わせ」を立て、適切な方法を用いて調査し、各自の「答え」を導き出せるようになる 3) 多様な意見を尊重しながら建設的に議論できるようになる			この研究会では、「人間と人間」の関係、「人間と自然」の関係の変容を長期的視野から考えます。具体的なテーマは、ゼミのなかで相談しながら決定します。 これまでにとりあげた具体的なテーマ : 東京湾、富士山、温泉、病と医療、自然観、特産物と食、鉄道、宿場、寺社、祭り、着物、文化、結婚式、教育、出版、ごみ処理と3R、など		
授業の進め方					
① 入門書や歴史資料を読み解くことで、基本的な知識や研究手法を習得とともに、各自の関心を深める。 ② 各自の関心にそくして「問い合わせ」を立て、文献調査やフィールドワークなどを行い、「答え」を共有・議論する。 ③ 以上から、具体的な事例に基づいて、「人間と人間」の関係、「人間と自然」の関係の変容を長期的視野から考える。 —「問い合わせ」の例— ・農山村における家族や生業、暮らしのあり方は、どのように変容してきたのだろうか？ ・東京湾の開発、鉄道の敷設は、どのように進められ、近代以降の日本の展開にどのような役割を担ったのだろうか？ ・地域の名物や観光地(景勝地や寺社など)は、どのように形成されてきたのだろうか？ ・食糧や飲料水といった生活必需品は、どのように確保されてきたのだろうか？ ・洪水や土砂災害のリスクは、どのように軽減されてきたのだろうか？					
学生の皆さんへのメッセージ					
教員の主な研究分野は 「日本史」「環境史」 です。「歴史は暗記系の学問」というイメージがあるかもしれません、歴史学の醍醐味は、データを時系列順に整理し、人間がこれまでどのように生きてきたのか、どのように生きていくのかを考えるところにあると思います。未来を考えるとき、人は検討材料として過去を参照します。 長期的視野から過去・現在・未来を見通そうとするのが歴史学 だといえるでしょう。たとえば、歴史学の現代的意義として、次の2つをあげることができます。 ① 地域の個性の「再発見」 →それぞれの魅力を活かした地域活性化に寄与 ② 在来知・伝統知(蓄積されてきた知識や技術)の「再発見」 →資源の利用・管理、防災・減災のためのヒントの獲得 本研究会では、 時間として主に江戸時代～現在を(江戸時代を含まなければならないということではありません)、空間として日本 をとりあげますが、さらに古い時代や日欧比較などに関心がある場合には相談してください。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
発表の準備 (データの収集と整理、資料の作成など)			平常点、発表、質疑・討論などを総合的に評価します。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2・3年生				
希望者は、志望調査票に下記の【1】【2】を できるだけ具体的に記入 して提出してください。調査票の内容に基づいて面接を実施します。面接の実施方法や日時などについては、学習支援システムの「お知らせ」で配信します。 【1】この研究会を志望する理由 (この研究会を 自身の学習・スキルアップのために どのように活用したいか) 【2】関心のあるテーマやキーワードとその理由					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	下記日程でオープンゼミを開催します。そのなかで簡単な説明会を実施します。 10月27日(月)4限 / 11月10日(月)4限 詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。			
備考					
10/23(木)午後の研究会個別相談会に参加予定です。詳細は学部Webサイトを確認してください。					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード	25100323								
テーマ	SDGs 時代に社会から選ばれる企業とは何か									
担当者	長谷川 直哉	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 4限					
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース ローカル・サステイナビリティコース									
授業の到達目標	授業のテーマ									
2・3 年生でチーム(4~5 名)を編成し、日経ストックリーグに参加します。春学期は、SDGs に関するグローバルトレンドと企業の関係について学びます。秋学期からは企業訪問などのフィールド調査を行って、サステナビリティ社会で必要とされる企業 20 社を選定しレポートを作成します。	SDGs やパリ協定(カーボンニュートラル)の登場によって、企業を取り巻く環境は激変しています。社会人になる前に「良い企業、良い社会、良い働き方」とは何かという問い合わせに対する回答を見出すため、企業と社会の関係性を学びます。									
授業の進め方										
春学期はSDGs やカーボンニュートラルをテーマにした文献や論文を購読し、日経ストックリーグでの活動に必要な経営学や金融の知識、論理的思考法、ディベート力を養成します。秋学期はチーム毎にサステナビリティ報告書と財務データの分析や企業訪問・外部有識者と面談を行って、上場企業約 3,800 社の中から SDGs 時代にふさわしい企業 20 社を選定しポートフォリオを組成します。研究会 A(火・4 限)の応募者は研究会 B(人間環境演習)(火・5 限)にも参加すること勧めます。また、ゼミでの学習やフィールド調査から得た成果をまとめて、学外の論文コンテストや日経ストックリーグに応募します。										
学生の皆さんへのメッセージ										
ゼミの研究成果を基に毎年応募している日経ストックリーグでは最優秀賞&金融大臣賞を受賞し、2011 年のゼミ創設以来 14 年連続入選(入選率約4%程度)を果しました。日経ストックリーグの成果をさらに発展させて外部の小論文コンテストに応募し、最優秀賞をはじめ毎年入賞を果たしています。このゼミでは 3 年間しっかり学び、①知識を習得するだけではなく、未知の問い合わせに対する答えを追求しようというチャレンジ精神のある人、②社会に通用する人間力[意欲×能力×コミュニケーション力×人柄×健康]を養成したい人を歓迎します。										
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準									
企業訪問調査やサブゼミ(火・3 限)をゼミ以外の時間帯に実施します。ゼミ活動の一環として、東京 6 大学野球観戦や夏休みにゼミ合宿(奄美大島など)を行います。	成績評価は加点主義で、平常点(研究会活動への貢献度)、日経ストックリーグレポート、外部論文コンテスト、卒業論文等に対する取り組み姿勢を総合的に評価します。									
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）										
募集対象学年	新 2・3 年生									
<ul style="list-style-type: none"> ・志望調査票に記載された志望動機と面接(オンライン)による選考を行います。 ・新 2・3 年生は日経ストックリーグへの参加、新 4 年生は研究会修了論文の作成を必須とします。 ・研究会 A を希望する者は研究会 B(人間環境演習)にも参加することを勧めます。 ・応募者本人に直接面接の連絡をしますので、志望調査票には必ず連絡の取れるメールアドレスを記載してください。 ・研究会 A の合格者は「現代企業論」「ビジネスヒストリー」「CSR 論 I」「CSR 論 II」を必ず履修して下さい。 										
オープンゼミ・説明会										
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。(オープンゼミ開催予定日 10/21、10/28、11/4、11/11)								
説明会開催有無	有									
備考										

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード	25100324	
テーマ	名勝・詩跡・旅および都市について考える		
担当者	日原 傳	開講期	通年
関連するコース	人間文化コース・ローカル・サステイナビリティコース		
授業の到達目標		授業のテーマ	
・名勝、詩跡および都市の成立の経緯について理解を深める。 ・近代以前の旅の実態について理解を深める。 ・名勝、詩跡の成立に関わった文学、絵画などの存在を知る。		・名勝、詩跡および都市の成立の経緯を探り、その自然や歴史との関わりについて考察する。 ・近代以前に書かれた紀行文・日記等を読み、当時の旅の実態を探る。	
授業の進め方			
・最初の時間に、本年度用いる基本テキストについて説明します。以後は、テキストを輪読してゆきます。 ・春学期は江戸時代に書かれた紀行文を読む予定です。 ・秋学期は江戸・東京という都市の成立に関する文献を読む予定です。 ・各自が自分の興味のあるテーマについて調べ、発表する時間も設けたいと思います。			
学生の皆さんへのメッセージ			
過去には以下のようなテキストを読みました。こういった方面に興味のある学生の参加を歓迎します。 松尾芭蕉『おくの細道』『野ざらし紀行』、鈴木理生『江戸はこうして造られた』『江戸の都市計画』(ちくま学芸文庫)、久保田淳『隅田川の文学』(岩波新書)、陣内秀信『東京の空間人類学』(ちくま学芸文庫)『水都 東京』(ちくま新書)、和田茂樹編『漱石・子規往復書簡集』(岩波文庫)、復本一郎編『子規紀行文集』(岩波文庫)、柴田宵曲『子規居士の周囲』(岩波文庫)、足利健亮『地図から読む歴史』(講談社学術文庫)			
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）		成績評価基準	
・次回読む文献を下読みし、分からぬ言葉・事項は辞書を引いて調べておく。 ・最終レポートを提出する。		平常点(授業への参加態度、発表内容)80% 最終レポート20%	
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）			
募集対象学年	新2~4年生		
・志望者が多く選抜が必要な場合は「志望調査票」によって選抜します。 ・Bゼミとの掛け持ちを認めます。			
オープンゼミ・説明会			
オープンゼミ開催有無	無	期日を決めてのオープンゼミ・説明会は行ないません。授業の見学を希望する人は担当者にメール(アドレスは履修の手引き参照)等で連絡してください。	
備考			

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100325		
テーマ	地域と舞台芸術のサステイナビリティ				
担当者	平野井 ちえ子	開講期	通年	曜日時限	木曜日 4限
関連するコース	人間文化コース ローカル・サステイナビリティコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
舞台芸術の各ジャンルへの理解を深める。首都圏／地域ならではの舞台芸術の創造と継承について考察する。基本的な知識と方法論を身につけた後、とくに自信をもって語れる得意ジャンルまたはエリアをもつこと。			首都圏／地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、日本の文化政策・アートマネジメントの現状を考える。舞台作品に関する鑑賞眼を養う。		
授業の進め方					
春学期の前半は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスなどの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行います。春学期の後半は、受講者各自に自分の選んだ舞台作品の鑑賞レポート作成と発表を求めます。 秋学期は、文化政策や劇場建築の基本書を輪読した後、劇場／芸能の「場」に関する受講者各自のケーススタディを指導します。					
学生の皆さんへのメッセージ					
人文系の学問、とくに舞台芸術・身体表現・比較文化・コミュニケーション・アートフェスティバルなどに関心のある人の参加を期待します。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
文献講読の予習（発表者はレジュメまたはパワーポイントの準備） 舞台鑑賞と劇場調査（レポート作成）			参加態度、授業への貢献度、口頭発表、レポートなどから総合的に評価します。口頭発表は、テキスト輪読分とレポート（舞台鑑賞+劇場調査）分とします。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2~3年生				
選抜方法は、志望理由書とそれに基づくZoom面談です。志望理由書は具体的に書いて下さい。たとえば、下記の内容を盛り込むとわかりやすいです。①舞台芸術のどのようなジャンル／作品／アーティストに興味があるか（これまでの鑑賞経験も含む）②芸術の場として、どのような劇場／地域に興味があるか ③文化政策・アートマネジメント・フィールドワークに関する資料を読んだことがあれば、その著者名／資料名など。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	無	本研究会に興味のある方は、学習支援システムに仮登録して情報を確認して下さい。また、質問のある方は学習支援システム「お知らせ」欄に記載の教員メールアドレスまでご連絡下さい。			
説明会開催有無	無				
備考					
個別相談会(10/23)は、ポスター掲示の予定。					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100326		
テーマ	環境問題解決に向けた市民の活動と行政、企業との連携				
担当者	藤田 研二郎	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日 3限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース サステイナブル経済・経営コース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
具体的な環境問題解決の取組みについて、フィールドワークを中心に社会調査の方法を学びながら、2年生は <u>グループでの研究</u> 、3年生以降は <u>個人での研究</u> （主にケーススタディ）を行います。4年生時には、 <u>卒業論文</u> を執筆することを目指します。			NGO・NPO、ボランティアをはじめ <u>市民の組織による自発的な活動</u> や、 <u>行政、企業との連携</u> について、具体的な取組みやよりよい連携のあり方を検討しながら、環境問題の解決に向けた課題を学びます。また、 <u>インタビュー調査などの社会調査の方法</u> を身につけます。		
授業の進め方					
(2年生) <u>フィールドワーク</u> を中心に、その事前・事後学習からなるグループでの研究を行います。また、 <u>環境社会学や地域社会学、NPO論</u> などの教科書的な文献をレビューし、基礎的な知識を身につけます。					
(3、4年生) グループ研究をサポートしつつ、 <u>情報収集や社会調査の方法</u> を学び、主に <u>ケーススタディ</u> による個人での研究を行います。4年生は研究発表を通じて個人の研究テーマを深め、卒論の執筆を目指します。					
※2025年度のグループ研究のテーマは、水辺の保全活動（我孫子市）、新規就農者の支援（あきる野市）、ビーチクリーン活動（茅ヶ崎市など）です。また9月に東京都檜原村で、1泊2日のゼミ合宿を行いました。					
学生の皆さんへのメッセージ					
日頃から、ディスカッションやスライドの共同編集など、 <u>グループワーク</u> を行います。ゼミのメンバーと積極的にコミュニケーションをとり、主体的にゼミの運営に参加してください。					
2023年度に開講した、まだ歴史の浅いゼミです。ぜひ一緒にゼミをつくっていきましょう。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
<ul style="list-style-type: none">環境問題のニュースに关心をもって、日常的に情報収集を行う対象の文献をしっかり読む、発表の準備を行う			平常点、グループワーク、フィールドワーク、文献発表、研究発表、課題の提出などを総合的に評価します。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2、3年生 合計10人程度				
志望調査票に、次の①②を <u>できるだけ具体的に記入</u> し、提出してください。調査票の内容にもとづき、適宜面接を行います。					
① このゼミを志望する理由		※ <u>第一志望</u> の場合はその旨を記載してください			
② 現在関心のある研究テーマ・具体的な事例					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	有				
備考					
10/23（木）の研究会個別相談会に参加予定です。現役のゼミ生から話を聞けると思います。					
また <u>11/6、13（木）3限・F303教室</u> にて、オープンゼミ（ゼミの説明や研究発表など）を行います。詳細は学習支援システムで連絡します。					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100327		
テーマ	日本とヨーロッパの地域・企業分析				
担当者	松本敦則	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 3 限
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース グローバル・サステイナビリティコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
地域・企業分析の理論や仕組みを理解する。それを踏まえたうえで、実践的な研究・活動ができるスキルを取得することを目標とする。			主に地域・企業分析という観点から日本とイタリア、スイス、ドイツ等との比較研究を行いたい。その他、関連する地域の中小企業、地域金融、地域産業政策、観光分野も扱っていきたい。		
授業の進め方					
毎回担当者を決めて基本的な文献を輪読し、発表してもらう。その他、フィールドワークやゲスト講師の講義も検討していく。また、受講生は本研究会を通して各自の研究テーマを設定し、自ら研究を進めその発表会も行う予定である。					
学生の皆さんへのメッセージ					
本研究会では地域・企業が抱える課題の解決を主眼とし、歴史的経緯、現状分析などの理論的理を進める。さらに、実践知を高めるために、ある地域・企業の事例についてグループワークを行うことを考えている。昨年度は栗栽培や焼き物の産地の茨城県笠間市に行き夏のゼミ合宿を行った。国際比較の対象国としてはイタリアをはじめとする欧州を中心に考えている。広く国際的な視点を踏まえ地域・企業分析に関心のある学生の参加を望む。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
地域・企業分析に関する文献、新聞、雑誌、ニュースに關心を持ち、常に国際的、多面的な視点から最新の情報を得る努力をすること。			毎回の出席、ゼミへの貢献、レポート提出を基準に総合的に判断する。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2年生、新3年生（若干名）				
自己紹介文の提出と面接を行い決定する。面接日程等の詳細は学習支援システムをご覧ください。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	有	備考			

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100328		
テーマ	地球温暖化とその周辺				
担当者	松本倫明	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 5限
関連するコース	ローカル・サステナビリティコース 環境サイエンスコース				
授業の到達目標	授業のテーマ				
地球温暖化とその周辺について理解を深めます。そのために、事実やデータにもとづいて客観的に定量的に解析し、考察する力をつけます。また環境に関する幅広い知見も得ます。	地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。最近の全体テーマは「AI×サステナビリティ」、「水素エネルギーの未来」、「シン SDGs」、「カーボンニュートラル」、「プラスチック資源循環とレジ袋有料化」でした。				
授業の進め方					
<p>「グループワーク」（春学期）…特定のテーマについてグループで研究します。環境に関するイベントを視察するなどの学外調査や、文献に基づいた研究なども行います。</p> <p>「環境速報」（通年）…環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。</p> <p>「研究報告」（後期）…個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。</p> <p>「報告書」（年度末）…1年間の成果をまとめた報告書を提出します。4年生は研究会修了論文を提出します。</p> <p>「その他」必要に応じてサブゼミを火曜6限に行います。学期中には親睦会、夏休みには合宿も行います。</p>					
学生の皆さんへのメッセージ					
<p>ゼミの運営はゼミ生を尊重します。やりたいことなど、いろいろな意見を提案してください。</p> <p>研究テーマの選択についてもゼミ生の意向を尊重します。</p> <p>ゼミ活動をインスタグラムで発信しています！ https://www.instagram.com/matsumoto.semi.hosei/</p>					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
環境速報・グループ発表、研究報告などのレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。学外で調査を実施することがあります。			ゼミへの参加姿勢、発表と議論の姿勢、年度末報告書にもとづき総合的に判断します。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2年生・新3年生				
<p>志望理由書と面接にもとづき選抜します。面接には現ゼミ生が同席する場合があります。面接日程等の詳細は学習支援システムをご覧ください。</p>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	有				
備考					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100329		
テーマ	21世紀を健康に生きていくために				
担当者	宮川 路子	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 3限
関連するコース	環境サイエンスコース ローカル・サステイナビリティコース				
授業の到達目標				授業のテーマ	
テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を磨き、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、ディスカッション能力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。				ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が1998年から14年連続で3万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2万人程度となっているものの、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。学生が将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。	
授業の進め方					
本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1年に2回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。					
学生の皆さんへのメッセージ					
一緒に楽しく学べる方、意欲のある方を募集します。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）				成績評価基準	
日頃から健康関連のニュースに关心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、さらに関連図書をよむこと。そして、自分自身の意見を持てるようよく考えること。				春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行います。その際のレジュメ、発表内容、参加意欲および参加態度により評価を行います。	
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	主として新2年生、新3年生（若干名）				
現役のゼミ生は継続履修するため、新3年生については空き定員のみの募集となります。そのため、新2年生の募集が主となります。志望理由をしっかりと記してください。応募人数が多い場合には、面接を行います。面接日時の発表から面接までの時間が短いので志望者は掲示板を注意して確認するようお願いします。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	有				
備考					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100330		
テーマ	21世紀を健康に生きていくために				
担当者	宮川 路子	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 4限
関連するコース	環境サイエンスコース ローカル・サステイナビリティコース				
授業の到達目標	授業のテーマ				
テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を磨き、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、ディスカッション能力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。	ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が1998年から14年連続で3万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2万人程度となっているものの、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。学生が将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。				
授業の進め方					
本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1年に2回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。					
学生の皆さんへのメッセージ					
一緒に楽しく学べる方、意欲のある方を募集します。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準				
日頃から健康関連のニュースに关心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、さらに関連図書をよむこと。そして、自分自身の意見を持つようによく考えること。	春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行います。その際のレジュメ、発表内容、参加意欲および参加態度により評価を行います。				
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	主として新2年生、新3年生（若干名）				
現役のゼミ生は継続履修するため、新3年生については空き定員のみの募集となります。そのため、新2年生の募集が主となります。志望理由をしっかりと記してください。応募人数が多い場合には、面接を行います。面接日時の発表から面接までの時間が短いので志望者は掲示板を注意して確認するようお願いします。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	有				
備考					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100331		
テーマ	多様な人材が能力を活かせる雇用社会				
担当者	山田 久	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日5限
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース				
授業の到達目標		授業のテーマ			
労働問題をテーマに経済社会や企業、組織の在り方を考察・議論することを通じ、課題発見力・論理的思考力・対話力の涵養を目指します。加えて学生の皆さんに社会に出て、個性を活かしながら組織で活躍していくのに有益な、考え方や視野を身に着けることを目指します。		人口減少が進み、企業や組織の人材不足は深刻になっています。一方で、世界情勢の複雑化や様々な社会課題・経営課題に対処するため、個々人の能力向上が求められる時代が到来しています。多様な人々が能力を伸ばして活き活き働く社会や組織の在り方を考えます。			
授業の進め方					
以下を想定していますが、ゼミ生の皆さんの意向も聞きながら決めていきたいと思います。					
【春学期】 ゼミ生の皆さんの関心に合わせつつ、労働問題やその前提となる日本経済に関する教科書的な文献を輪読し、基礎的な知識や論理的思考力を身につけます。同時に討論テーマを設定しグループに分かれて議論することで生きた知識や考え方を学習します。					
【秋学期】 ゼミ生それぞれがテーマを設定し、事例・文献の探索の仕方、統計処理の方法などを学びながら、レポート作成を行います。					
学生の皆さんへのメッセージ					
民間企業で長く働いた経験を活かし、ゼミ生の皆さんに充実した社会人生活を送るために資する物の見方・考え方をお伝えできればと思っています。ゼミ生同士が切磋琢磨し、皆さんがバランスのとれた見方と多様な意見を尊重できる姿勢を身に着けられる場になればと考えています。本ゼミの他に、社会人大学院(イノベーション・マネジメント研究科)のゼミも担当しています。そちらでは、社会人学生が、実社会の経験に根差した具体的な社会・経営課題に関するテーマを設定し、その解決策を提案しています。ゼミ生の皆さんと社会人学生の方々との交流機会を設ければと考えています。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）		成績評価基準			
自分で調べるテーマを決め、資料を集めたり関連図書を読み込んでいただきます。新聞やニュースを継続してチェックし、世の中の動きをフォローするよう心がけてください。		ゼミ参加への積極度、発表やレポートなどを総合的に判断して評価します。			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2年生				
5~6名を目指して考えています。①書類と②面接で選考します。参加希望者は Hoppiiに仮登録したうえで、「研究会志望調査票」と「研究会志望アンケート」を記入し、アップロードしてください。書類選考を通過された方に追って面接の日時・場所を連絡します。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	説明会・相談会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	有				
備考					

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100332													
テーマ	「地域の経済」を考える															
担当者	湯澤 規子	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 3限											
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース			ローカル・サステイナビリティコース												
授業の到達目標		授業のテーマ														
①自らの「問い合わせ」を立て ②主体的に調べ（フィールドワークや資料収集・分析） ③リサーチペーパーor ポスターの作成（2, 3年生） ④卒業論文の作成（4年生）		この研究会では「地域の経済」を様々な視点から考えます。日常生活の中にある身近なことを出発点とし、課題を見つけ、それを広い視野から議論していきます。														
授業の進め方																
Step1: 「地域の経済」に関する文献の精読とグループ報告 Step2: ミニフィールドワーク（現地に行くことが難しい場合は、様々な工夫やアイデアで実施する） Step3: 春学期前半に取り組んだ文献講読などをもとに、グループごとに「問い合わせ」を立て、調査計画を作成 Step4: グループごとの調査報告（2, 3年生） Step5: 個人テーマの決定と調査計画の作成（4年生）																
学生の皆さんへのメッセージ																
◆どんな小さなことでも、自分自身の問題意識や好奇心にもとづいた「問い合わせ」を立ててみてください。 ◆その「問い合わせ」を頭の片隅に置きながら日々を過ごすと、今まで見えなかつたものが見えたり、気にならなかつたものが気になったりしてきます。 ◆その「発見」、「違和感」、「経験」を自分以外の誰かに伝え、一緒に考える場が研究会です。 ◆侃侃諤諤（かんかんがくがく）、伸び伸びとした「共考」の場にしていきましょう。																
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）		成績評価基準														
・興味関心に関わる情報を様々な視点から集める（文献、地図、写真、映画、小説、現地調査…） ・発表の準備（データの整理、レジュメの作成など） ・研究テーマにかかわる様々な体験をする		研究会への参加、発表、質疑応答、討論などを総合的に評価します。														
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）																
募集対象学年	新2年生を中心に10名程度。新3年生、若干名。															
参加希望者は、①なぜこのゼミを志望しているのか、②受講した中で興味深かった講義とその理由（湯澤の講義以外で）、③「地域の経済」をテーマにして、研究したいことをできるだけ具体的に、志望調査票に記入して提出してください。文字数は自由ですが、全体の分量が学部指定の志望理由書1枚に収まるように工夫して下さい。調査票の内容にもとづいて面接を実施します。面接の実施方法などについては、学習支援システムの「おしらせ」情報でお知らせします（同じ内容をメールでも配信します）。																
オープンゼミ・説明会																
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミの時に簡単なゼミ説明を実施します。 10月28日、11月4日、11日、（火3限、教室は【Y402】です。 情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。														
説明会開催有無	有															
備考																
◆オープンゼミは①13:10～14:10 研究進捗報告（通常ゼミ）、②14:10～14:40（説明会） →①②どちらでも、いずれかでも参加できます。 *詳細は学習支援システムの 「お知らせ」を確認してください。																
Instagram@hosei_yuzawakenkyukai				 HOSEI.YUZAWAKENKYUKAI												
各SNSのDMにて質問等も受け付けています←																

2026年度研究会募集要項

研究会A（研究会）を新たに希望する学生は、必ず応募を行ってください。

同一の研究会A（研究会）を継続履修希望する学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

A	学習支援システム応募用授業コード		25100333		
テーマ	環境倫理学とアメニティマップ				
担当者	吉永明弘	開講期	通年	<small>※変更可能性有 曜日時限</small>	木曜日2限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース 人間文化コース				
授業の到達目標				授業のテーマ	
(1)文献購読を通じて環境倫理学の知識を身につける。(2)マップを作成する過程で地域を観察、分析する能力を身につける。(3)書評レポートを書くことによって、基礎的な文章力を習得する。				(1)文献購読を通じて環境倫理学について学ぶ。(2)アメニティマップをつくって地域を観察・分析する(3)書評レポートを書く。	
授業の進め方					
(1)環境倫理学に関する文献を読み進める。 (2)アメニティマップづくり:まち歩きをしてマップにまとめ、発表する。 (3)書評レポートを提出し、相互に添削する。					
学生の皆さんへのメッセージ					
このゼミには二つの焦点があります。一つは「環境倫理学」で、環境を守るためににはどのようなしきみをつくるべきかを考える学問です。こちらは文献購読と書評作成によって学んでいきます。もう一つは「アメニティマップ」です。「アメニティマップ」は、地域環境の保全やまちづくりについて具体的に考えるためのツールです。身近な地域を歩いて、良いところ・悪いところを地図上に表して議論します。歩き、読書、環境保全、環境倫理学に興味のある人の参加を求めます。書評の例として、環境倫理学と環境問題の本 100 冊を紹介した拙著『ブックガイド環境倫理』(勁草書房)をご覧ください。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）				成績評価基準	
レジュメ作成、まち歩き、マップ作りを授業外で行うことが必須である。休日に時間のとれる人が望ましい。				文献購読への参加、作成されたレジュメ、書評、マップ、ポスター発表、によって評価する。	
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2年生のみ				
Eメールのやりとりを通じて選抜します。私からの質問に答える形で進めます。結果もメールでお伝えします。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	無	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	無				
備考					